

NPO法人社会還元センターグループわ 会報

情報ぎゃらりー

第35号

情報ギャラリー第35号

発行日 2006年7月28日
編集 グループわ 広報部
発行者 郷 肥三
発行元 NPO法人社会還元センター
グループわ
TEL(078)743-8101 FAX(078)743-3830
Eメール group_wa@wa-net.jp
ホームページ http://www.wa-net.jp

2006年グループわ定期総会

活動内容の充実と拡大をめざす

新理事長 郷 肥三氏(福9)が決意表明

特定非営利活動法人社会還元センターグループわの第3回定期総会は、平成18年5月18日(木)午前10時からシルバーカレッジホールで、門脇淳子さんの司会で開かれた。

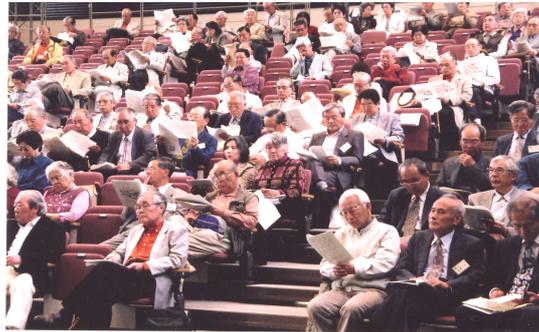
納利春理事長(生7)が「17年度は子ども家庭センターの電話相談業務や小学校の学習支援活動に取り組むなど成果を上げました」と開会挨拶をした。来賓を代表して、こうべ市民福祉振興協会の米澤俊雄専務理事から「これからは人づくりが大切な課題であり、その意味でもグループわの評価は高い。今後も協力と支援は惜しまない」との言葉を頂いた。

来賓として他に神戸市保健福祉局高齢福祉部 森田文明部長、同市高齢福祉課 山本剛司課長、同市シルバーカレッジ 小林和夫事務局長、神戸ワイン 渡辺由和常務の臨席があった。

議長に赤司松美さん(生6)書記に谷田部宏さん(同)を選び、赤司議長より当日の会員総数1020名、

総会出席者162名、委任状478名で会員数の過半数を得て総会は成立している旨の報告があった。

議事に移り、三宅慶忠副理事長(国8)から平成17年度事業報告及び決算報告、黒田宏監事から監査報告がそれぞれあり、一括採決の結果、挙手多数で可決された。赤司議長から18年度新役員選任の提案があり、新理事長に郷肥三さん(福9)はじめ下記の新役員が満場一致で承認された。



平成18年度の事業計画を審議する第3回定例総会

郷新理事長が役員を代表して「1000人を超すNPO法人はまれで

あり、現在の活動内容では不満足である。今後はボランティア内容の充実と拡大に全力で取り組みたい」と力強い決意表明があった。

続いて郷理事長から平成18年度事業計画、井上副理事長から同年度の事業予算についての提案説明があり、挙手多数で承認された。特に事業計画では活性化委員会の指摘を受けて、新規活動分野の開拓に積極的に取り組むとしている。またニュースポーツ大会など全員参加型イベントで、会員相互の連携と親睦を計るほか、新規事業として全国障害者スポーツ大会(のじぎく兵庫大会)のボランティア活動、会員相互扶助事業の具体化、子育て支援事業、在校

生との連携強化などに取り組むとしている。主要議案すべての審議が終了した。最後に退任した納前理事長からお礼の挨拶があり、11時過ぎ閉会した。

続いて第2部の文化部会のパフォーマンスに移り、ハワイアン、奇術、琴演奏、コーラスなどがあり、

終わりに混声合唱団と出席者全員で校歌を合唱して締めくくった。

平成十八年度社会還元センター

グループわ新役員

相談役	監事	西区会長	垂水区会長	須磨区会長	長田区会長	北区会長	兵庫区会長	中央区会長	灘区会長	東灘区会長	いさかい部会長	文化部会長	環境部会長	国際部会長	福祉部会長	広報部長	財務担当	事務局次長	事務局局長	事務局長	理事	理事	副理事長	理事長		
岡村利春	三宅健一	西田圭一	下本一護	山口雅信	松本治司	淡路忠義	川田陽太郎	五味正昭	福田望	白岩信義	大掛敏夫	垣尾一士	西限勝治	竹内義治	納利春	西順三	藪口卓史	加藤隆治	高木稔雄	高橋孝夫	上田敦子	東本保夫	中沢将悟	小林将悟	井上肥三	郷肥三
(生7、新)	(園7、新)	(国8、新)	(生9、新)	(生9、新)	(生6、再)	(美8、再)	(福5、再)	(生7、新)	(福7、新)	(国8、再)	(国7、再)	(生7、再)	(音4、再)	(生7、再)	(国9、新)	(生8、再)	(園8、再)	(生8、再)	(美9、新)	(国9、新)	(生9、新)	(福9、再)	(音9、再)	(生8、再)	(福8、再)	(福9、新)

新理事としての就任挨拶

理事長に就任して

理事長 郷 肥三 (福-9期)



会員の皆さん、日頃はボランティア活動に精を出してくださいまして誠にありがとうございます。

私はグループ わ に入りまして2年目を迎え、5月18日の総会で理事長に選ばれまして、早や2ヶ月が過ぎようとしています。皆さんの努力のおかげで、いま神戸市内ではグループ わ が少しづつ認知されてきました。人と人のかかわりを大切にして、市民の皆さんから感謝されるNPO法人になりたいものです。シルバーカレッジの建学精神にもあるように“再び学んで他のために”を会員の皆さんと共に行動に移して行きたいと思っています。

理事長の行動指針として次の3つのことばを選びました。「誠実、信頼、思いやり」のころを持って常に事に当ることです。熟年はどことなく品格が必要です。品格がにじみ出るには人間の質的なものがそなわっていかねばならない。

縁の下の支えとして

副理事長 井上 堅 (福-8期)



グループわがNPO法人化して3年目。少子高齢化・国際化社会の中にあって、地域に目を向け、地域と連携して活動する組織わが注目されています。最近の社会構造、ライフスタイルの変化に伴って、福祉ニーズの多様化がすすみ、わの活動も「持てる力を出し合う仕組みづくり」が重要になってきました。皆さんの豊かな知識、技能、経験を活かせる場を拡げるよう努力する所存です。

「できる者ができることを、他のために」をモットーにわの活動に加わって3年目になりました。気負わず、縁の下の支えとして頑張りたく思います。よろしくご協力をお願いします。

偽りのない誠実な人格を身につけて常にそのころを持って行動できるようにする。初めてお逢いした人にも第一印象でなんとなく信頼関係が築けるよう行動する。これはボランティアの必要条件であると考えます。

皆さんがグループ わ の会員としてボランティア活動をされる場合、例えおひとりでもグループ わ を代表しているという誇りを持って行動して頂きたいと思ひます。そうすることによって、信頼されるグループ わ を育てていきましょう。

平成18年度の本部関係イベントは約40件を数える程になります。(財)長寿社会開発センターからの助成金が内定しました。

また、10月1日からのじぎく兵庫国体、そのあとに続いてのじぎく兵庫大会(第6回全国障害者スポーツ大会)が10月14日~16日まで開催され、地下鉄の総合運動公園駅前にてふれあい広場が設営されます。グループ わ としてもあそびコーナーを含めてボランティア活動を多くの会員の皆さんに予定して頂いています。

皆さんが互いに支えあって今後とも元気で生き甲斐のある活動をしようではありませんか。

グループ わ 3年目を迎えて

副理事長 小林 将悟(生-8期)



グループ わ に入っで早くも3年目を迎えた。わの仕事の奥行きが深いことが少しずつ判ってきたように思う。この間私たちを取り巻く、環境も動かし難いトレンドである「少子高齢化」の足取りが確実にその歩を進めてきている。自分自身もその中の一人ではあるが、バス、地下鉄などの乗り物に高齢者の増加をひしひしと感じる。

社会全体としてシニアパワーを生かして如何に豊かな社会を形成して行くかは、大変大きく重い課題である。高齢者側から望まれることは、高齢者自身、社会の役にそれなりに立っていると言う手ごたえをしっかりと感じることであろう。

それが張り合い、やりがいにつながり、新たなエネルギーを生む。このことを念頭におきそれが張り合いで、3年目に取り組みたいと思う。

活動の根底は人間尊重

理事 中沢 保夫(音-9期)



「人間尊重」ということばをあらためて思ひます。目線を相手の立場に合わせて考えながら共に楽しい日々を送る。根底には自分をはじめ、周りの人たちや日本人、ひいては世界のため、自分たちは何を求め、何をすればよいかという、人として大切なことがこの四文字にひめられていると思ひます。

グループ わ で理事として二年目を迎え、引き続き「子どもたちの学習支援活動」を担当することになりました。多くの支援者の皆さまに、これからも楽しく生き甲斐を感じながら活動され、小学校の子どもさんや先生方のお役に立っていただけるように努めていきたいと思ひています。

“わ”はKCSの大学院

理事 東本 敦子(福-9期)



私が事務局のお世話をはじめて2年目にはいりました。昨年は、グループ わ とは、どのような活動をしているのかを見て

何とか吸収しようとするだけで精一杯だったような気がします。活動を通じて先輩はじめ皆さんに親しくしていただき、大変勉強になった一年でした。わはシルバーの大学院の感じで、カレッジで教わったことを実践しているみたいです。この1年は、皆様とともに各種イベントや、ボランティア活動に積極的に参加して行きたいとおもいます。

和をモットーに

理事 上田 市夫(生-10期)



KSCでは環境問題の奥の深さを学んだ3年間でしたが、卒業後は趣味の菜園にいそむことを楽しみにしていた矢先に、図らずも

わのサポートを (次頁に続く)

(前頁から続く)するよう誘われました。在学中は、わ についてはなんの知識もなかっただけにサポートの話には大きな戸惑いがありました。

人の輪づくりの難しさは、地元の花壇や公園のボランティアをする中で、実感しております。皆様方の仲間に入れていただいて日も浅く、分からないことばかりですが、先輩諸兄姉が各分野で熱心にボランティア活動に取り組んでおられる姿を見るにつけ、ただただ敬服するばかりです。

この刺激を大切にしながら、自身が迎ってきたささやかな社会体験を「他のために」少しでも役立てることが出来ればと思っています。微力ではありますが、先輩を鏡にして和をモットーに頑張りますので、会員各位のご支援、ご協力をお願いいたします。

2年目を迎えて

事務局長 高橋 孝男 (国 9期)



グループ わ の事務局を担当し、この度2年目を迎えることになりましたが、この1年間多くのことを知りました。

その一つに毎月届けられる活動報告をパソコンのデータベースに打ち込みながら、大勢の会員の皆様が多くの人々を対象に活躍されている様子が浮かんで参ります。

残念ながら現場に足を運んで拝見させて頂いたり、体験の機会が少ないため、そのご苦労の一端をお察しするのみですが、事務局として少しでもお役に立てるよう努めますので、今後とも何卒宜しくお願い致します。

縁の下の力持ちとして

事務局次長 高木 稔雄 (国 10期)



カレッジ卒業後は、在学中に始めた趣味とボランティアに専念するつもりでしたが、わ 本部の手伝いをしてくれないかとの電話があり、

お手伝いくらいなら、と軽い気持ちで入会しました。しかし、いきなり事務局次長などという大層な肩書きを戴きいささか戸惑っているところです。

この二ヶ月ほど、わ の事務局において、非常に多忙であること、そして皆さんがてきぱきと業務を処理されて

いることが印象的でした。

本部の存在意義は、現在第一線でボランティア活動されている方々の活動をサポートし、またボランティア活動の機会を待っておられる方々にボランティアの場を提供することにあると思います。

まだ慣れない点も多々ありますが、一時でも早くいわば縁の下の力持ちとしてそういった方々のご期待に沿えるように、微力ながら尽くしていきたいと考えております。

現場支援に全力投球

事務局次長 加藤 勇治 (美 10期)



「カレッジ卒業を機に、これから少しは世のため、人のためになることをせねば。」という反省の気持ちもあって、乞われるまま わ の仕事

を引き受けました。

グループ わ は今や 1000 名を超える会員を擁し、市内有数のボランティア団体として注目されつつあります。少子高齢化が進む社会にあって、経験豊かなシルバー人材を擁する わ の活動は今後ますます重要性を増すに違いありません。

わ には有能な方が数多くボランティア活動志願者として登録されています。一人でも多くの方がボランティア活動に加わり、社会貢献を実感いただけるよう、活動現場をサポートする事務局の果たすべき役割は非常に大きなものがあります。

「再び学んで他のために」を实践するには未熟で経験不足ですが、精一杯取り組み、「縁の下の支え」として現場支援に全力投球する所存です。

来年 10 周年節目の年

財務担当 大西 隆史 (生 8期)



昨年度は私たちグループ わ にとって、NPO 法人格認可の 2 年目の年でありました。会員の皆様の献身的なご努力と関係機関のご協力の

お陰で、従来の活動に加え、「神戸市こども家庭センター」電話相談の新規受託業務や、こどもたちへの学習支援活動といった新たな活動を展開することができました。財務の内容におき

ましても、正味財産が前年度と比べて約 160 万円あまりの増加という結果になっております。これらは会員数の増加もありますが、こうべ環境未来館、こども家庭センターの受託業務に従事しておられる方々の寄与が最も大きな要因だと思っており、厚くお礼を申し上げます。

来年はグループ わ の創立 10 周年の節目の年にあたり記念事業の実施が計画され、それについての出費が予想されますが、NPO 法人に相応しい少しでも社会に貢献できる行事にする必要があると思います。

喜びをともに味わおう

財務担当 藪口 卓也 (園 10期)



6 月のしあわせの村 - 緑の木々、色とりどりの草花、ほととぎすの声、こころ楽しめるものが溢れています。一度、グループ わ にお出で

になりませんか。趣味を楽しみつつ、そのことが他の人々の心を少しでも楽しく出来れば、何と素敵なことでしょう。ついつい迷い込んでしまったグループ わ の世界ですが、まずは前任財務担当の大西理事をお助けして、財務基盤の確立に努め、皆様のボランティア活動が一層喜びを分かち合えるものとして発展することにお役に立てれば幸いです。

活動の活性化に向けて

広報部長 西阪 順三 (生 8期)



情報ぎやらりーの編集を引き継いで早や 1 年。まだ未熟なパソコン技術を駆使して紙面づくりにただ忙しい日々を送る 1 年でした

この間、情報ギャラリーに対するいろんな意見やご批判を頂き、大いに励みになりました。

昨年からはじめた 子供たちの学習支援活動 は、これからのグループ わ の活動の根幹になる事業であります。微力ながら学習支援にも参加、活動内容を逐一取り上げて支援活動を盛り上げてきました。

今年はグループ わ のボランティア活動の活性化が課題であり、紙面や HP を通じて積極的に PR します。

広がる学習支援の輪

シルバー世代と子どもたちとの楽しい出会い 理事・中沢 保夫

グループ わ「子どもたちの学習支援活動」によせて

シルバーカレッジ事務局

平成17年度にグループ わ が立ち上げられた「子どもたちの学習支援活動」は今年で2年目を迎え、着実に進展しておられますこと、心より喜び申し上げます。

グループ わ がこのような活動をはじめられた背景には、今日の子どもの育ちや生活の荒廃を鑑みられたのではないかと思います。教育界の見直しや家庭の教育力の向上が叫ばれていますが、子どもたちの学力低下、不登校、行為障害等々の荒れた現象の根底には、社会の大きな変化があります。

皆様方シルバー世代が育った時代は、物質的には貧しい生活ではあったものの生活環境や、家族・地域の人的環境は、子どもたちの成長には実に適したものでした。

ところが現在は、文部科学省が「子どもの生活リズム向上全国フォーラム」を展開し「早寝早起き朝ごはん運動」を推進しなければならない社会状況です。また、地域力を高めようとする施策を打ち出すなど、人と人とのかわりもまた、敢えて創り出さなければならない時代です。

そのような時代だからこそ、これからを担う子どもたちと、ゆったりとした温かい時間を共有できる「子どもたちの学習支援活動」は子どもたちにとっても、シルバー世代にとっても大切な取り組みだと考えます。

特に最近、特別支援教育の補助を要請してくる学校が多いと聞いています。特別支援を必要とする子どもたちは、その生活に寄り添ってあげるだけで、温かい人の思いをしっかりと受け止め、安心して教育を受けることができるのです。

今後、グループ わ の「子どもたちの学習支援活動」がさらに発展し、シルバー世代と子どもたちとの楽しい出会いが、神戸のあちこちの小学校で広まっていくことを願っています。

学習支援活動に はじめて参加して

音10 - 川合 真人



この春から、こうべ小学校6年生の算数補助（シルバーサポーター）活動をはじめました。子どもに教えることは、学生時代の家庭教師以来45年振りです。現場で先生による実際の授業に参画して、分数計算等のサポートをしています。

隔週で、1回3

時限（3クラス各1時限）渡辺寛治さん（国際10期）と2人でお手伝いしています。算数の得意な子と、苦手

の子の能力の差は大きく、苦手な子には、問題の意味が理解できないために解けない子や、九九等の計算が出来ない子もいます。この辺りを判断して解き方のヒントを与え、出来るだけ自分で考えて解いてもらうようなサポートを心がけています。

何度も解けなかった子が、やり方を理解して突然「ああそうか」と声を出し、自力で解き始めるのを目にするのは、こちらの最も嬉しい時です。褒めると目が輝きます。これで自信が持て、算数への興味も湧けばしめたものです。今は子ども達との新鮮な交流を楽しんでいます。

第4回学習支援活動

登録者の集いのご案内

日時：平成18年8月22日（火）10:00～12:00

場所：神戸市シルバーカレッジ2F学習室1～4

主な議題：

- (1)平成18年度「子どもたちの学習支援活動」の現況報告
- (2)支援活動の進め方についてご相談
- (3)数グループにわかれての情報交換など

広がる地域交流活動

小学生見守りやクリーン作戦

神戸市シルバーカレッジの全校生による地域交流会が6月20日（火）から3日間、カレッジホールで開かれました。3年目を迎えたこの活動は全市域に広がりを見せ、今年も64グループに分かれて、小学生の見守り活動や地域の駅周辺、河川のクリーン作戦が展開されることになりました。

「地域に入って活動するきっかけづくりになるような授業をしてほしい」との学生からの要望で、さる16年度から共通授業としてはじめたものです。

20日は北、兵庫区、21日は東灘、中央、長田、西区、22日は垂水、須磨区に分かれて全校生1、100余

名が受講しました。

説明会では神戸市市民参画推進局市民活動支援課の上田課長、地域力強化推進課の米山主査、同市地球環境課の橋本主査から地域交流活動の参考となる「協働と参画による地域力強化プラン」や「地域のイベント・サポート隊“かえっこバザール”の開催」が紹介されました。またグループ わ からは



地域交流活動の説明会に参加した在校生

中沢理事、小林勝氏（国11）が「子どもたちの学習支援活動の現況と支援登録者の勧誘について」の説明しました。

午後からは各区ごとの地域交流グループに分かれて、昨年までの活動内容について説明を聞いたあと、今後の具体的な活動内容や取り組みについて打ち合わせ、各グループはこの夏休みから交流活動に入りました。

電話相談1年を振り返る

神戸市こども家庭センター

国8 - 国 三宅 慶忠

グループわが神戸市こども家庭センターの電話相談を受託、業務を始めてから1年が経ちました。昨今こどもへの虐待、こどもの非行・粗暴行為が社会問題化しており、時にはそれが人命に関する事態にまでエスカレートし、マスコミ種になるケースが多発しています。

神戸でも虐待、非行事例は例外ではないようです。こうしたことの問題解決に大切なことは、事前に、また事後であっても状況を把握して、自治体が適切に対処することです。

こうした事態の通報や相談などは職員の勤務時間外にも数多く寄せられます。しかも緊急なものもあり、何時如何なる時であっても、そういった情報を受け止める体制が必要です。

国（厚生労働省）は、地方自治体の児童相談所に終日24時間・周年365日電話相談に応じられるよう要請しました。しかし、行政のスリム化が叫ばれる環境にあって職員でこなすことは容易ではありません。そうした事情の下、民活で補うこととなった勤務時間外の電話相談業務をグループわが受託することとなった次第です。

一旦受託した以上途中で挫折することはできないし、準公務員的立場で市民への直接のサービス窓口業務を担う訳で、対応の如何によっては大事に至ることも考えられ、委託の打診があった時は慎重に協議をしました。しかしグループわの福祉活動や、NPO法人格など諸条件が評価され、委託打診があった。また市から業務受託していた環境未来館の実績からも、グループわは受託能力があるとして、当時の赤司理事長が受託を決断し、わ運営基盤を強固にしました。

去る6月9日の電話相談定例ミーティングで、こども家庭センター小川主幹がこの1年間の総括をされましたが、概ね円滑かつ実効ある業務が遂行できたとの評価に併せ、1年間の業務についての数的実績も示して頂きました。

電話相談員を担って頂いた方は、単なるボランティアではない、寄せられ

NPO法人ボランティア保険について

～事故が生じた場合、わ本部へ至急連絡を～

最近、わ関連のボランティア活動中に怪我をされる人が増えています。お互い事故のないように十分気をつけましょう。活動中に事故が生じた場合、大至急 わ本部へご一報ください。保険会社への事故報告は急を要します。

NPO法人ボランティア保険は、ボランティア活動中の個人傷害や会員が事故により他人の身体や財物に損害を与えた場合も補償を受けることができます。

なお補償内容は次の通りです。

補償項目		保険金額
賠償責任 (免責金額なし)	対人・対物共通	1事故・保険期間中 2億円
	管理財物	1事故・保険期間中 50万円(現金10万円)
	人格権侵害	1名(1事故・保険期間中) 50万円(同100万円)
	事故対応費用	1事故・保険期間中 500万円
見舞費用	死亡	50万円
	後遺障害	1.5万円～50万円
	入院日数に応じて2～10万円 通院日数に応じて1～5万円	
傷害保険	死亡保険金額	535万円
	後遺障害保険金額	535～1605万円
	入院保険金日額	8,000円
	手術保険金額	入院保険金日額の10・20・40倍
	通院保険金日額	5,000円
お知らせは わ本部 (TEL 743-8101 番、FAX 743-3830 番) 保険担当 井上 堅まで		

た相談、通報などの情報について最終的な解決能力、権限を持たない立場で、最終的には職員に情報を渡し問題解決を図ることになりますが、相談相手に満足して貰うのにご苦労がありました。長年の経験、体験、知識に加え、シルバーカレッジでの学習成果を踏まえ適切に対処して頂いています。なかには対処が不適切ではと真剣に悩み、反省されているケースもあります。

こども家庭センターの仕事は、健全な家庭環境を育成保全し、引いては良質な社会を形成することにもなる大切なものです。電話相談員は、職員が

日頃遅くまで、そして休日もなく勤務している状況を見るにつけ、電話相談が市福祉行政の一助となり、大いに社会貢献していると自負されていると思います。電話相談員の方には、相談業務になれてマンネリ化して、言葉は悪いがお座なりの電話対応にならないよう自戒し、常に緊張感を持って業務を遂行して頂きたいと思います。

神戸市こども家庭センター電話相談業務受託の成否は、正にグループわの力量を問われるもので、電話相談員の方たちの協力を得ながら、グループわとして取り組みたいと思います。

環境部会

地球環境に優しい

グリーンプラを普及

生10環 角南 貴義

私たち、シルバーカレッジ 生活環境コース(10期生)の有志が「グループ学習」のテーマとして「次世代プラスチック・グリーンプラ」を取り上げ学習してきました。

この成果を踏まえて、環境保全、特にCO2排出削減(京都議定書遂行責務)・脱石油依存・廃棄物利活用を主眼に、バイオマスの活用を図り、循環型社会作りに寄与することを目的として、本年4月に「神戸グリーンプラの会」を立ち上げました。

【“グリーンプラ”ってなに?】

・使用中は従来のプラスチックと同じように使えて、使用後は自然界の微生物によって水(H2O)と炭酸ガス(CO2)に分解される地球に優しいプラスチックです。

・主として植物や生ごみなど『植物由来の資源』バイオマスを原料としています。石油などの化石資源と違い、持続的に利用できるのが特徴です。



学園祭でグリーンプラのPR活動

【プラスチックと どう違うの?】

・焼却しても埋め立てても、新たに大気中のCO2を増加させません。(CO2を吸収して育つ“植物”を原料としているため、カーボンニュートラルな材料だからです。)

・石油などの限りある化石資源を節約できます。

・使用後は回収し、バイオリサイクル、ケミカルリサイクル、マテリアルリサイクル、サーマルリサイクルなど最良のリサイクルを選択できます。

【どんなところに使われているの?】

・包装容器(レジ袋、梱包緩衝材、卵パック、食品トレイ、包装フィルムなど)

・日用品(食器、ゴミ袋、水切りネット、文具、玩具、紙おむつ、育苗ポットなど)

・自動車、電気部品(タイヤカバー、フロアマット、音響機器・パソコン筐体など)

【グリーンプラをどう見付けるの?】

・グリーンプラ製品には、右のようなマークがついています。



・現在、グリーンプラマークのついた製品が800種あまりあります。

【神戸グリーンプラの会はどんな活動をするの?】

= グリーンプラの普及を通じて =

- ・環境教育の推進を図る活動
- ・子ども環境教育向上を図る活動
- ・グリーンプラ製品の導入を支援する活動・関連情報の受発信
- ・個別連絡・助言援助の活動

【最後に】

- ・昨年の「愛知万博」で初めてグリーンプラが紹介されました。
- ・今秋開かれる「のじぎく兵庫国体」でも一部(弁当ケース、資料袋、カードホルダーなど)にグリーンプラを採用する予定です。
- ・グリーンプラはまだまだ“ひよっ子”であり知られておりません。“環境に優しい・グリーンプラ”を普及させるために、私たちとグリーンプラの会で一緒に活動しませんか?お待ちしております。

申込は神戸市シルバーカレッジ内
グループ わ 環境部会へ
TEL 743-8101
FAX 743-3830



◎使用済みカップは回収箱に入れてください

グループ学習G
グリーンプラ研究会

早や2年が経ちました

こうべ環境未来館管理運営

生6-環 赤司 松美

平成16年6月1日にオープンした「こうべ環境未来館」も早や2年が経過しました。管理運営委託業務を開始し、現在までに大きなトラブルもなく、関係者の努力で順調に業務遂行がなされ、その成果は行政および市民からも高く評価されています。

お陰さまで18年度も引き続き業務委託を受け関係者一同、環境啓発の拠点としての未来館の使命を全うするよう尚一層の努力研鑽をする覚悟であります。

毎週水曜日が定休日で、定休日以外は責任者1名、コーディネーター1名、計2名が9時より17時まで常駐し、管理業務に当たっています。月平均1,000人を越す見学者があり、予約された団体客にはガイドも行っています。

20名程度の会議室および140名収容可能な研修室(3分割利用も可)も無料で借用できます。環境未来館、隣接の資源リサイクルセンターの見学および上記部屋の借用願等の問い合わせは下記まで。

見学申込および問い合わせ

TEL 995-3196 FAX 995-3192



再生品の展示および提供

毎月、自転車および家具の再生品を各約10点を展示し、第3金曜日に抽選により¥1,000円~¥2,000円で提供しています。グループわ会員の来館見学をお待ちしております。なお詳細はホームページ

(<http://www.kobe-miraikan.com>)
を参照してください。

こうべ環境未来館エコスクール2話 野草の観察と地球温暖化防止の学習会

生3 - 中島 洋吉

地球温暖化防止の学習会 ～未来の乗り物と

エネルギー工作教室～

こうべ環境未来館と栗本鉄工所、大阪ガスの共催、アースパル KOBE の協力で6月17日(土)10時から15時まで開かれました。参加者121名スタッフ52名という大人気の学習会となりました。

私たちは、毎日多くのエネルギーを使って生活しており、さまざまな環境問題の多くは、普段のライフスタイルが原因となっていることがほとんどです。このような観点から、エネルギーをテーマに電気やクルマの排気ガスやクリーンエネルギーをとりあげて子どもたちに地球温



燃料電池の電動カートを楽しそうに試乗する母子

暖化に関心をもってもらうとともに、地球温暖化を防ぐためにはどうしたらよいかを体験的に学び、身近なことから実践行動に結びつけてもらおうという企画でした。

今回のプログラムは、まずは6班に分かれて、班ごとに地球温暖化防止について話し合いをし、これから家に帰って実践することを班ごとに発表してもらいました。

次に大阪ガスの担当者からエネルギーを中心にした子どもにも分かりやすい内容の環境の話や、栗本鉄工所の水の電気分解と水素を利用した燃料電池の実験、アースパル KOBE の手動風力・太陽光発電器具を使ったクリーンエネルギーの実験、神戸市環境局の水とCO2を使った実験などがあり、班ごとに巡回して、話を聞いたり見たり体験しました。

その後、屋外に出て、大阪ガスの天然ガス車とディーゼル車の排気ガスの比較実験や大気観測車の説明を聞いたり、栗本鉄工所が持ってきていた世界初の「燃料電池を動力源とする電動カート」と日本初の「燃料電

池電動車いす」に試乗しました。午後からは扇風機を使って、弱、中、強、首振りでどれ位消費電力が異なるかを測定して、家電製品の使い方による消費電力の違いを実感したり、様々な家電製品の消費電力量を調べました。続いて、実際の風力発電でも用いられる羽根車をペットボトルを使って作成し、小型モーターの軸に取り付け、うまく回転させて発電させる工作

野草の観察とクッキング ～食べられる野草を探して 春を味わおう～

5月20日(土)午前10時から開催されました。前日の激しい雨で開催が危ぶまれましたが、幸い雨も上がりスタッフを含め参加者91名が一日を楽しみました。未来館周辺の西区押部谷町木津一帯は自然環境の豊かな田園地帯で、この自然環境の中で、子どもたちは野草を観察してまわりました。

スタッフとして参加したグループの野草に詳しい会員たちから野草の名前や食べられる野草を説明してもらいながら、野草の観察と野草摘みを楽しみました。摘み取った野草をスケッチし、またいろいろな野草の試食会など貴重な体験を通して、自然のありがたさや大切さに気づいたようでした。

午後からは野草の観察や採集した野草や七草を映像で説明を受け再確認しました。そのあと楽しみにしていた野草の試食会で、いろいろな野草

と実験に挑戦しました。いろんなアイデアを反映した羽根車ができあがり、大人も子どもも工作と実験に熱中していました。

午後からはあいにくの本降りの雨になりましたが、今回のプログラムを通して、普段何げなく使っているエネルギーと地球温暖化とのつながりや、それを防ぐためにはどうしたらよいかについて、たくさんのことを学び、エコスクールを終えました。

参加された方の感想の一部を紹介します。【子どもたちの感想】

- ・工作で羽根車を作ったのが楽しかったです。乗り物に乗ったのも楽しかったです。工作で作ったものを家でもやってみたいです。(8才女児)
 - ・燃料電池電動カートに乗ったのが楽しかった。これからはテレビのスイッチを細かく消します。地球がこのままであって欲しいから。(10才男児)
- 【大人の感想】・水素ガス車の試乗見学が楽しかった。扇風機は控えめに、お風呂はまとめて入りましょう。部屋の電気、テレビのつけっぱなしは控えます。(40才男性)



未来館のピオトープで野草や生きもの調べを調理したものを賞味しました。「こんな野草も食べられるなんて…」と和気藹々のうちに春の野草を楽しく味わいました。

最後に子どもたちに採取した野草をスケッチし、それぞれの感想を発表してもらい終了しました。参加した30歳のお母さんは「山菜取りに行きリーダーの生き辞引きの様な山野草の知識にびっくり!とても勉強になりました。藤の花やつばきの花が食べられるなんて驚きでした。山菜独特の苦みが旨いですね。これから山歩きや散歩にも野草を見ながら歩きます」と話していました。

東灘区会

灘の酒蔵めぐり

新入会員歓迎ウォーキング

音5 東 藤井 潤子

恒例により新人歓迎のウォーキングを今年は灘の酒蔵巡りとし、去る4月12日に行ないました。



新入会員を迎えての酒蔵巡り

収穫感謝のパーティー

遊喜幼稚園の食育ボランティア

音5 - 東 藤井 潤子

心配した雨も降らず陽射しの強い7月4日。東灘区魚崎町の市立遊喜幼稚園では、園児と共になくわくしながら待っていた“ジャガイモ”の収穫の日です。

ことして2回目になるジャガイモ堀りですが、約20本の苗からなんと大小あわせて130個の収穫でした。



「わぁー大きなおイモだ」おお喜びの園児たち

この日は年長、年少組を合わせて46名と、私たち東灘区会の会員9名も加わってジャガイモ堀りに参加しました。園児の小さい手で掘って、掘って「もう終わりかな」と思ったら、また大きなイモが手に触れた。喜びいっぱいの笑顔で、大事そうにジャガイモを抱えていたのが印象的でした。この笑顔に接すればボランティアは辞められません。

四季折々の野菜の育成については

新入会員8名を迎え総勢38名が出席、阪神電鉄新在家駅を出発しました。まず、こうべ甲南武庫の郷から処女塚古墳 神戸酒心館 白鶴酒造資料館 菊正宗記念館等でお酒を試飲しながら桜正宗記念館までの約4キロを2時間半かけて歩きました。

雨具を用意していたのですが、お天気も回復したので、入谷清弘さん(食文5期)の楽しい説明を聞きながらの快適な酒蔵めぐりでした。桜宴にて例会、歓迎昼食会を和気藹々のうちに終了、新旧会員の親睦を深めました。

掲示板 東灘区会
10月17日(火)は大阪ガスのLPG泉北工場の見学会です。会員の皆さん予定しておいて下さい。

何時も分かり易く園児に指導してくださる富永征児さん(園芸-7)に感謝です。

19日にはこのジャガイモと前回収穫した玉ねぎを使っでの収穫感謝のパーティーが開かれました。PTAのお母さん達がお料理した「粉ふきいも」「いため玉ねぎ」が小さいテーブルに並べられ、私達も園児達と一緒に味わいましたが、何と楽しいひと時だったでしょう。植付けから収穫、そ

して調理の手伝いをし、食事をいただくまでを一貫して体験した園児達は、食べ物大切さを学んだことと思います。最後に園児達のお礼のことばに胸を熱くしました。

地域のふれあいの大切さが叫ばれているこの頃、子どもたちの成長を見守る手助けになれ

ばと思います。

灘区会

都賀川の清掃に汗流す

国8 - 灘 福田 望

9期生を中心とした「都賀川を守る会」と灘区会が共同で、7月9日(日)に夏の川開き前の清掃作業に汗を流しました。

東灘区会の皆さんの応援もあって総勢20名で、都賀川の周辺の公園を

西区会

「見守りグループ」が活躍

登下校の監視や農園の管理

生8 - 西 三島 隆夫

西区竹の台在住のわの会員の方々により、この5月から「竹の台見守りグループ」を結成していましたが、新しい活動として「なかよし農園」のお手伝いをはじめました。

見守りグループは黄色の目印のベストを着用し、神戸市立竹の台小学校の生徒が登下校する道の角々に立ち、交通安全と犯罪防止に役立てようというものです。

現在、登録者は約30名で当日、都合のつく人が小学校に集まり、その都度、場所を決めて立ち番です。30度を越す炎天下の立ち番は大変ですが、児童から「こんにちは、さようなら」の元気な声の挨拶を聞きたくて、またぞろ出掛けます。児童達はもちろん我々も夏休みを待ち侘びていました。



炎天下、なかよし農園でお手伝い「なかよし農園」は、NPO法人ぴっぴ(主に主婦)の皆さんが立ち上げていた農園のお手伝いで、毎週水、土曜日の午前中、畑の耕し、草取り水遣り等、この炎天下に大変ですが、子ども達にも体験させています。その成果である夏野菜類を先日、小学校でバザーを開き近所の皆さんに頒布しました。次回が待ち遠しいなど好評を頂きました。

含めて、川さらいや雑草抜きに汗を流しながら交流を深めました。

灘区会は今年、9期生から12期生(在学生)まで新入会があり、現在45名(男子30名、女子15名)になりました。例会や新会員歓迎会を開いて会員の親睦を深めたり、先日はわ本部の役員と灘区役所のボランティアセンターを訪ね、今後の活動支援をお願いしてきました。

兵庫区会

美しい会下山公園づくりに発展

45年間のラジオ体操会活動が実を結ぶ 福3 兵 山中 敏夫

シルバーカレッジに学んだ私たちは“再び学んで他のために”を合言葉に、多様な社会活動に参加しています。しかし“他のために”は実は自分の健康と生き甲斐のためになっていることを多くの方が認めています。

そのことが他の人にお世話にならないで生きて行く事によって、他の人へのボランティアになっていると思います。そのために手軽に参加し、お手伝い出来るのが、いま市内51ヶ所で行われている年中無休の朝のラジオ体操だと思えます。

私が45年来参加してきた「会下山ラジオ体操会」は、兵庫区の中央、標高50mの会下山の山頂にあります。緑の多い適度な散歩道を登ると、楠正成湊川陣跡の碑や、殉職海員3万2千余の霊を祀る海員萬霊塔のある広場です。



朝日を一杯に浴びて会下山ラジオ体操の会員たち

昭和33年7月(1958年)に、近くの医師家族によって始められ、年毎に参加者が増えたのです。昭和40年代から60年代にかけて、春と秋の気候のよい時期は800人、夏休みには小学生の参加もあり1,000人を越す大体操会場となりました。冬場でも500人の参加者がありました。

毎朝、雨の日も風の日も一日も休むことなく、ラジオ体操で健康な汗を流しています。体操のあとは民踊の輪、あちこちで詩吟、将棋、輪投げ、バドミントンを楽しむ人々で賑わっていました。

年中行事も盛んで元旦の新年祝賀式、春の花見会、将棋大会、バドミ

トン大会。夏は夏休み体操会、盆踊り大会、秋の輪投げ大会、運動会。また日帰りバス旅行、ハイキングと毎月のように行事を行ってきました。

こうした盛り沢山の行事もわずか100円の年会費で、多くの世話役の方々の積極的なお手伝いと、少額ながら多数の方の寄付によって今日まで続けることが出来ました。

昭和51年8月、会下山会場からNHK全国放送によるラジオ体操会が放送され、3,000人の参加者が集まりました。55年4月には朝日放送ラジオ「おはよう道場洋三です」で紹介されたり、郵政省からラジオ体操全国優良団体など数々の表彰を受けました。熱心な会員も多く、現在1万回以上の参加者が2人、5千回以上の方が50人もいます。

この盛況が一変したのは平成7年1月17日の阪神淡路大震災です。震災5日目から再開したものの、ほとんどの行事が休止し、最近の体操参加者は春から秋には200~230人冬には50~80人に減っています。

こうした体操会も他のところも同じだと思えますが、当初は近隣の住民とのトラブルが度重なりました。ラジオの音が高いとか、沿道での参加者の話し声や笑い声に対する苦情、嫌がらせが大半でした。

いまではご近所との相互理解も深まり、以前のような賑わいを見せています。市当局からも50年近い活動実績が認められて、会下山公園一帯の清掃委託を受け、会員有志が毎月2回、広い公園の隅々までゴミ拾いをしたり、年1回サクラの苗木を植え続けています。

近隣地域団体と行政と共に“美しい公園づくり”への動きもはじまり、少子高齢社会に対応するために、多くの地域住民の健康とコミュニティづくりへの参加が望まれています。

垂水区会

理想の土で花壇や畑作り

垂水会地域活動部会

生9 - 垂 竹中 任

神戸市立多聞ひまわり幼稚園で園芸作業している垂水会地域活動部会の在籍人員は15名です。第1、第3火曜日の活動日には8~9名の方が常に参加されています。

作業時間は午前9時30分から11時30分までの2時間です。活動内容は園児がつくる野菜畑や花壇用の土作りが主な作業ですが、他に園児たちが参加できる畑で、季節毎に植える野菜、じゃがいも、玉葱、さつまいも、キュウリ、トマトなど10種類ほどの作付けも行います。幼稚園の花壇には季節に応じた清々しい花が常に咲いておられます。



きゅうり、おくらの苗植えの部員たち

生き物が相手ですので、月2回程度の活動では、満足できる世話ではありませんが、メンバーの人達が随意に園に来て雑草を取ったり、苗木の添え木等を作ったりしています。

「食育」の重要性が注視される中で、我々はできるだけ「理想の土」即ち山の腐葉土のように有機物や、ミネラルを多く含んだ土作りを目指して日々の作業をしております。また園児の年長組との会話を通じて、虫の働きや生き物の命等について、いろんな質問や問いかけも楽しみの一つです。

いま幼稚園では、さつまいも、ゴーヤ、キュウリ、さんどまめ、おくら、ひまわり等で緑一杯です。メンバー全員が楽しんで活動しております。



「わいわいストリート」大成功 初イベントで わ の実力発揮

理事 - 加藤 勇治

快晴のさる5月3日(祝)しあわせの村中央緑道で、親子連れや行楽客を対象に、手作りイベント“わいわいストリート”が催され、800人を超える参加者で大にぎわいでした。

このイベントはしあわせの村(こうべ市民福祉振興協会)が従来、業者に委託して、毎年5月に開催していましたが、本年はグループわが全面委託を受け、その実行力が注目される催しでありました。



お手玉やあや取りを楽しむ親子たち

「親子の絆を深め、心の通う」イベントとして企画し、わ本部、関係部会、地区会挙げて取り組んだ結果、従来をはるかに超える800名もの親子の参加がありました。今回の大成功でグループわの総合力(企画力、要員動員力、運営力など)を内外に印象付けました。

しあわせの村中央緑道沿いにテントを並べ、6つの昔遊びコーナー「ケン玉・独楽まわしコーナー」「紙ヒコーキ・折り紙コーナー」「ぴよんぴよん蛙・紙トンボコーナー」「折り染めコーナー」「木のおもちゃ作りコーナー」「竹馬・竹ゲタコーナー」を設け、関係者総動員で対応しました。

この日、しあわせの村を訪れた親子連れの目を惹き、人気を独り占めする催しでした。いずれの体験コーナーも昔遊びに熱中する親子で終日賑わいました。なかでも文化部の「一寸奉仕」クラブの皆さんが大道芸人に扮し大活躍。講釈師が面白おかしく演じた口上と、一座の全員が披露した玉簾の妙技がイベントを盛り上げ、楽しい催しに色を添えました。

「七夕飾り作り」に参加して

福1文 杉田 明子

7月2日 フルーツフラワーパークでのイベント「七夕飾り作り」の日は予報通り朝から雨。「どうか、止んで欲しい」の願いが通じたのか、正午近くには殆ど上がり、ぼつぼつお客様がやってこられました。

折り紙グループの榊田さんのアイデアによるオリジナルの舟飾りや、華やかな網、可愛い折り紙のお人形など、この下準備はさぞ大変だったことでしょう。会場の大笹には、色とりどりの飾りが、賑やかに付けられてお客様を待ちます。



七夕飾りをもらって大喜びの子どもたち

開店早々には、グループわの事務局の皆さんがサンプルを作ってPRもして下さり、お客様もだんだん増えてきて、手元はにわかに忙しくなりました。出来上がったものをただ付ける

のではなく、出来るだけ自分の手作りを付けてもらうことにしました。瞬間に出来上がった赤い提灯を、見つめる子供達の笑顔がとてにぎやかでした。

今は流すこともなくなった笹飾りですが、せめて数日でも、部屋に飾っ

て、自分の夢や、願い事を書いた短冊を見ながら、なにか、ロマンを感じてくれたら...と思いました。

参加下さった皆様 どうもお疲れ様でした。

季節の草花

生8 - 久保 知彦

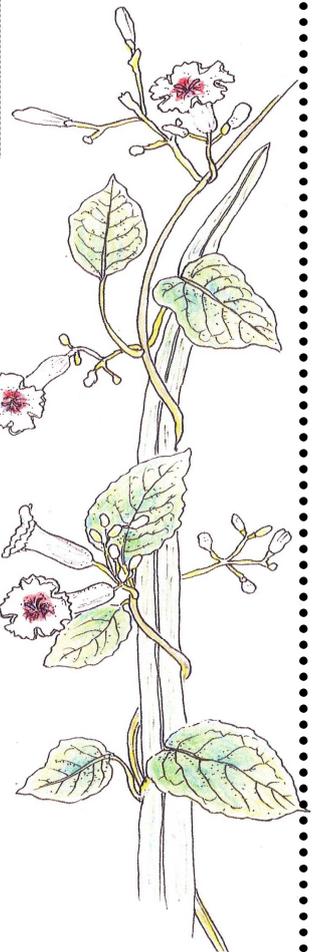
ヘクソカズラ

林や草地に生えるアカネ科の多年生つる草で、茎は左巻きに他の植物などからみついて上へのびて行く。つる性の植物は茎が弱いくせに、他にからみつくことによりどんどん延びていく生命力の強さを持っている。

この植物を紹介するときには、葉をもんでおいを嗅いでもらうとその悪臭に驚く。そこで、ヘクソカズラという名前をいうとすぐ納得する。漢字で書くと「屁糞蔓」というあまり名誉でない名前がついている。この様な名前とは裏腹に、7月ごろ、中心部が赤紫で外側が鐘状のかわいい白い花をつける。この花の色がお灸をすえた痕のように見るとか、花を体に押し付けてヤイトをして遊んだりした(ヤイトも今では死語になったか?)のでヤイトバナの別名がある。

このほうが似つかわしいとも思うが本名がヘクソカズラだから仕方がない。この悪名では可哀想なのでサオトメバナ(五月女花)という雅号ももらっているようだ。

「灸花 貧乏神の 匂ひとも」猿山木魂



国際部会

車椅子テニス大会を支援

国8-国 佐伯 義昭

兵庫県車椅子テニス協会主催「車椅子テニス神戸オープン 2006」が4月26日(水)から5日間、しあわせの村テニスコートで、全国から105名の選手が参加して開催されました。競技会には多数の団体、グループが会場支援と云うことで参加しました。私たちグループわ 国際部会が中心となって北区会、カレッジ在校生の応援を得て支援ボランティアに参加しました。

この競技は車輪が八の字型をした専用の車椅子を使い、プレイヤーは2バウンドでボールを打つことが出来るという唯一の例外を除いて、健常者テニスと全く同じルールに従っています。

会期中は天候に恵まれ、選手たちは障害者とは思われないほど明るく、この大会にそなえて猛練習に励み、その成果を十分に発揮する素晴らしい試合を展開し、生き生きとプレーを楽しんでいました。そんな真剣な姿を見て、私たちは元気をいただきました。



熱戦が繰り広げられる車椅子テニス大会

私たちの作業内容はテント張り、競技用車椅子の運搬整理、専用駐車場の整理のほか、接待係要員として飲み物、バナナ、弁当などを配布したり、トイレの掃除、添乗要員として伊丹空港、神戸空港、新神戸駅などで全国各地からの選手たちの送り迎えなどです。

最終日には表彰式のあと、主催者及び大会会長から私たち各ボランティア団体に感謝の言葉を頂きました。グループわの参加人数は延べ50名で、快く支援ボランティアに参加して下さった方々、本当にご苦労さまでした。

活動の場の提供をしあわせの村に強く要望

しあわせの村を運営する「こうべ市民福祉振興協会」の役員と、グループわの役員との懇談会が5月30日、シルバーカレッジ事務局で開かれました。

今春の役員改選で新しいメンバーとなり、顔合わせを兼ねて開かれたものです。協会からは米澤俊雄専務、鳥井正広常務、河合政利企画課長ら9名、グループわからは郷肥三理事長ら役員12名が出席しました。

郷理事長から「グループわも千

人を越す大所帯となり、現状では会員の活動の場が少なく、お膝元であるしあわせの村では是非、活躍する場を提供してほしい」と要望しました。

河合企画課長は「先日、初めての試みとしてわいわいストリートをお願いしたが、なんとこれまでの2倍に当たる800人を超す参加者があり、わの動員力に感心した」と報告された。

グループわの役員からは「会員の中にはいろんな専門家がいますので村内には野鳥が多く、鳥の鳴き声を聞く会 真夏の夜空の星を観察する会などを企画してほしい」と提案しました。

自然の神秘に出会う旅ニュージーランドへ

この度、マウントクック国立公園とミルフォードサウンドの二つの世界遺産を巡るニュージーランドの旅を企画致しましたのでご案内申し上げます。お友達お誘い合わせの上ご参加をお待ち申し上げます。

記

日時：平成18年9月15日(金)～22日(金) 8日間
 行先：ニュージーランド(マウントクック国立公園とミルフォードサウンド)
 旅行費用：269,900円(一人部屋追加55,000円)(全食事付)
 別途 関空、現地空港税・燃油サーチャージ等 約21,150円要

募集人員：15名より催行

募集締切：平成18年8月10日(厳守)

日	時	行程	朝	昼	夕
9/15	18:30	関西空港より? ニュージーランド航空にてオークランドへ	—	—	様
9/16	08:15	オークランド着オークランド発(約3時間)ワイトモ鍾乳洞の土ホタル見学、マオリ文化のロトルアへ若後市内観光。(ロトルア泊)		様	バハ
9/17		午前ロトルア発?(約1時間40分)クライトチャーチへ、若後市内観光(バグレイ公園、モナベイル、大聖堂)昼食後世界遺産マウントクックへ(マウントクック泊)	ホ	レ	ホ
9/18		午前マウントクックの朝を過ごし(フッカバレー半日ハイキング(日本語ハイキングガイド同行)午後クイーンズタウンへ、夕食後クイーンズタウンの夜景へ(クイーンズタウン泊)	ホ	シ	ラ
9/19		朝食後世界遺産ミルフォードサウンド観光(希望者はセスナでクイーンズタウンのフライバック可能(別料金、現地申込))(速泊)	ホ	弁	中
9/20		朝食後善き羊飼いの教会やスーパーマーケットへ立ち寄りクライストチャーチへ(クライストチャーチ泊)	中	サ	デ
9/21		クライストチャーチ発? オークランドへ、若後市内観光(マウントイーデン、パーネルロードを訪ねます。(オークランド泊)	ホ	飲	鉄
9/22	08:45	発? (約11時間15分) 関西空港着	—	様	—

(機、機内食・ホ、ホテル・レ、レストラン・バ、バーベキュー・ハ、ハンギデナーラ、ラム料理・中、中華・鉄、鉄板焼・サ、サーモン料理・デ、ハーブディナー)

※ 参加お申込後旅行出発日前 40日以降に取り消しの場合旅行規定により取消料が発生しますのでご注意ください。

※ 着泊ホテル：ロトルア、グラントティアラ又はミレニアム・マウントクック、ハーミテージクイーンズタウン、キングスゲートテラス・オークランド、メルキュールクライストチャーチ、シャトーオンサパーク

申し込み終了後に説明会を開催いたします。日時については後日連絡します。お申込・問い合わせは グループ わ 743-8101 番

大坪英二 TEL&FAX 709-2484 番まで

ポーンと10万円 ファンシークラブが寄付

「グループわの活動資金に役立てて下さい」 ファンシーワークスの代表角田正代さんが5月22日、グループわの事務局を訪れ、学園祭やバザーの売り上げ収益金10万円の寄付がありました。

ファンシーワークスはシルバーカレッジ5期生の有志で立ち上げられ、趣味の手芸を活かして、手編みのベストや帽子、ビーズなどを制作、学園祭やバザーなどで販売したり、施設を慰問して作品を寄付したりしていました。

一時会員は20人を越すクラブでしたが、最近に入部者が激減、本年春には会員が4名にまで減ったため、クラブを解散することにしたのです。5月17日、しあわせの村にOBらに呼びかけて最後のお別れ会を開き、作品の売り上げ余剰金10万円の寄付を決めたものです。

代表の角田さんは「会員が少なくなっても施設の慰問は続けます」と話しています。なおOBの皆さんも定期的に集まって、編み物の研修や奉仕をしています。

同窓会、合宿などは 神戸市立フルーツ フラワーパークで!!

フルーツフラワーパークの“シニア(65歳以上)ゆとりプラン”をご存知ですか？

- ・1泊2食7500円(カラオケ付)
- ・かけ流しの天然温泉あり。
- ・10名以上には、送迎バスも予約できます。(無料です。)

同窓会、グループの合宿、研修会などにご利用ください。また、フルーツフラワーパークのご好意により 下記のような**グループわの会員のみの特典**があります。

1グループの合宿、研修のためには、無料で部屋を使わせていただくことが出来ます。

2年齢を証明する物の提示はいりません。

**お問い合わせや、お申し込みはグループわ事務局まで。
743-8101番。**



ボランティアのお願い

中突堤 かもめりあ

勤務時間：10:00 ~ 16:00
(12:00~13:00 休憩)

勤務日：土、日、祝のみ

1ヶ月か1.5ヶ月に1回交代
都合の悪い時は各自交代する

業務内容：来場者に港めぐりの船かもめりあの施設、神戸市内観光の説明。

報酬：1回 1,000円

連絡 かもめりあガイド世話役
佐野 裕(福祉1期)まで
携帯電話 090-1158-9731

編集後記

「男子厨房に入るべからず」私は父の教えを守って、70歳を過ぎた今も自慢ではないが、料理というものを一切したことがない。そんな私が料理研究家、白井操先生の楽しむ料理教室「台所から始まる素敵なこと」に初めて参加した。

白井先生といえば NHK テレビの「きょうの料理」でおなじみで、シルバカレッジ食文コースの講師でもある。初めて作る料理は老人の健康を考えた“牛肉の時雨煮”“だしたっぷりの焼き茄子”“豚肉のみそ生姜焼き”など栄養たっぷりの内容です。

白井先生はテレビ放送馴れからか、流暢な口調で一気に説明されるが、初心者の中にはノートする間もない。5人1組の共同作業で、私は茄子を焼いて、竹串を使って皮をむいたり、豚肉の生姜焼きを担当した。馴れぬ手つきを見て、先生が手をとって直々の指導です。

やっとのことで無事料理が仕上がったが、他の組に比べて美的感覚が足りない。自分が作った料理の味はまずまずで、2時間余りの緊張感から開放された。

この料理教室のテーマは「台所から始まる素敵なこと」であるが、私にはとても楽しむどころか、料理とはなんと難しいことが分かった。それと妻が毎日、朝昼晩の食事を作る苦勞をしみじみと感じた次第です。ただ感謝、感謝である。(J・N)

グループ紹介 あかりの会

福5 - 文 淡路 忠義

この会は KSC・OB で結成し、平成13年3月にグループわあかりの会とする。現在会員数は20名(平成18年4月現在)で毎月2回研修会を開いている。第1火曜日

(中央区脇浜海岸通、日赤ボランティアルーム)第4水曜日(しあわせの村研修館)いずれも時間は10:00~16:00 講師は平林 良直(あかりの会発起人) 平成15年6月に兵庫県声の図書赤十字奉仕団(10グループ)



に入団。活動内容は単行本等朗読・録音テープに入れて盲学校に寄贈。インタビュー 編集構成 点字他。日赤の行事に参加(例、募金活動、防災キャンペーン)視覚障害者との交流会(年1回)幼稚園、小学校、各施設で朗読、紙芝居、ガイドヘルパー等。新年会、研修旅行で会員の親睦を深めています。